

脊椎手術解剖アトラス

菊地臣一 ● 編

〔評者〕 川口善治 (富山大診療教授・整形外科学)

「手術ができるようになるための秘訣は何か？」この問いに対する私の答えは、「正確な解剖学的知識を持つこと」である。しかし、この目的に叶う本をほとんど目にすることはない。それだけ外科医にとって重要な場面をわかりやすく示すことは困難なのである。

このたび医学書院から上梓された『脊椎手術解剖アトラス』は、まさに手術を行う側の視点で書かれた指南書である。このような本はめったにないと言える。編集された菊地先生は、医師として駆け出しの頃、夜な夜な解剖学教室でご遺体と向き合い、脊椎病変の局所所見をつぶさに勉強されたとお聞きする。その時の知識が、その後発展したさまざまな画像所見を正確に読み解き、多くの症例の手術に活かされたであろうことは想像に難くない。

手術においては次の場面でどのような展開になるかを知らなければならぬ。本アトラスはまさにかゆい所に手が届くように、多く

の図版が重要な場面を示してくれている。図版は実際の解剖写真や術中所見の写真、X線、CT像が口絵で解説されているので、非常に理解しやすい。この本は日本を代表する脊椎外科医5人によって編集され、かつ22人の第一人者のコメントが寄せられている。多くの手術を手掛けられ、さまざまな困難な場面を経験された間違いなくトップレベルの先生方である。手術のピットフォールを適切な言葉で示されたコメントには深い含蓄があり、外科医としての私の心に響く。私にとってこのアトラスは、手術前に知識を確認し、手術終了後に症例の病態を再確認する最良の書の一つとなった。

本の帯には「脊椎・脊髄外科の臨床(アート)と解剖(サイエンス)の結晶」とある。目の前にある事実「サイエンス」をどのように活かすか、「アート」を要求される一人ひとりの医師に問い掛けられる課題である。『脊椎手術解剖アトラス』は、これから脊椎・脊髄外科を勉強される先生方だけでな



く、既に活躍しておられるシニアの先生方に広くお読みいただきたい名著である。

A4・196頁

2017年5月

定価：本体16,000円＋税

[ISBN978-4-260-03044-1]

医学書院 刊